

コミュニティ静岡

あなたのまちの
コミュニティ活動情報誌

2017
1月

No.145



天浜線一の愛される駅舎に

2017年も羽ばたきます

ぽっぽや桜木会 (掛川市)



▼平成21年、天竜浜名湖鉄道桜木駅が無人駅となり、ゴミや喫煙マナー、防犯面などの課題が出てきた。このままではいけないと駅のそばに住む代表の甲賀さんが、地元の友人たちに声をかけ、駅周辺の美化運動を始めた。

今では、駅周辺の清掃や花壇の手入れ、駅利用者への声掛け運動、月1回の朝市開催など、美化運動から始まった活動が、いつのまにか居場所づくりや住民のふれあい活動にもなっている。

また、桜木小、和岡岡小学校の生徒の絵画や習字の駅舎展示や代表が中学校の評議員をしていた縁で、中学生との

共同清掃や12月のイルミネーションの取り付けを一緒に行うなど学校とのつながりを大事にしている。

▼会員は42人。その内8組は夫婦で参加し、最高齢は88歳のご夫婦である。今後も文化財の駅舎を守りながら、周辺の美化を心掛け楽しみながら活動を続けていく。
※春には自慢の芝桜が桜木駅を彩るので1度見に来てください。

◇代表：甲賀正子さん（問合せ・0537-22-9671）

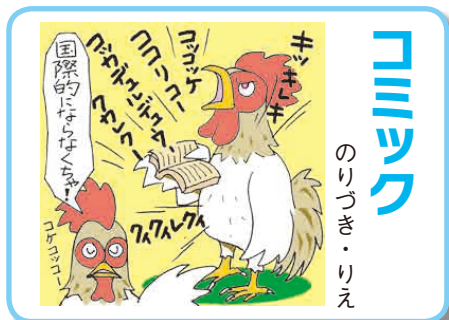
【情報提供・柴田清一】



Contents



各地の活動	●掛川市	1
活動賞審査結果	●平成28年度「コミュニティ活動賞」審査結果	2~3
各地の活動	●東伊豆町・伊豆の国市・裾野市・島田市	4~5
地域訪問記	●鎮守の森「梅名のお宮さん」境内の清掃続けて53年！（三島市）	6
	●心豊かな住みよい地域を目指しサポート活動（静岡市）	7
コミ推協から	●コミュニティ・フォーラム2017のお知らせ、他	8



コミック

のりづき・りえ

平成28年度「コミュニティ活動賞」

用宗の歴史資源を生かした水軍まつりの開催

もちむね
用宗活性化協議会（静岡市）



手作り甲冑を付けた勇ましいパレード

シラスの水揚げで知られる静岡市用宗港がある用宗地区には、地域活性化を目的に活動している団体は複数あったが、団体間の横のつながりがほとんどないことから、一つにまとまって活動していこうと平成26年10月、用宗活性化協議会が設立された。

地域を代表するイベントを開催しようと協議を重ね、他地域に誇れる歴史資源を生かし、幼児から高齢者までが一堂に世代間交流を図る「用宗水軍まつり」が平成27年に創作された。

このまつりで、戦国時代に持舟城で活躍した向井水軍、大雲寺に安置されているマリア観音、城山烈士慰霊塔など用宗の歴史などを再認識するきっかけとなり、用宗地域をまとめるまつりが誕生した。行政にほとんど頼らず自主的に活動し、「住民主体のまちづくり」の規範となるものである。

いつまでも仲良く“住んでよかった下当間”

しもどうま
下当間ふれあいサロン<一五の会>（藤枝市）

地区の高齢化も年を追うごと高まっていく中、家の中に閉じこもりがちの人が年々増加の傾向にある。孤立防止の手立てとして、気軽に集まる場を作り家の中に引きこもらないように「仲間づくり」「元気になろう」「生きがいをもとう」を主軸に平成19年4月に発足した。

ボランティアが講師となり、ミニ体操や時節にあった物づくりや紙芝居等を行う。年7～8回、ボランティアが作る季節感あふれる昼食を囲み会食会を開催。また、「いちごだより」の発行やラジオ体操、ふれあい寺小屋と、子どもたちを対象にした活動も行っている。

長く活動を継続することで地域の居場所として認知され、平均参加者は41人と多くの高齢者が利用している。子どもたちも巻き込みながら世代間交流を進めるなど、住んでよかった地域づくりに大きく貢献している。



笑顔で語り合える場、一五の会

湖東団地「すみれ会」	池田南ふれあいサロン	ママバトン	かなやスポ・レクの会	草薙の輪プロジェクト	第三地区下香貫連合自治会	マナビスト連絡会	パサティナ自治会	奨励賞	三十川コスモス実行委員会	南郷地区まちづくり協議会	抜里エコポリス	富士の麓deおとなまつり実行委員会	浮きウキ子どもクラブ	小諏訪喜楽会	優良賞	特定非営利活動法人新居まちネット	新野未来塾	下当間ふれあいサロン<一五の会>	用宗活性化協議会	優秀賞
浜松市	磐田市	掛川市	島田市	静岡市	沼津市	三島市	三島市		掛川市	掛川市	島田市	富士市	沼津市	沼津市		湖西市	御前崎市	藤枝市	静岡市	

NPO団体にも大いにアピールしていくべき課題だと思えます。

また、若い方々や女性の活動団体においても、特に地域コミュニティとの関りを意識的に強めていただき、それによりさらに活動の充実も図られると思えます。

静岡県コミュニティづくり推進協議会主催の本年度「コミュニティ活動賞」は、ここで紹介する優秀賞4団体ほか、別表のとおりとなった。

ワイワイ ガヤガヤ 町づくり

にいの
新野未来塾(御前崎市)

新野未来塾は、自分たちの生活に生きがいと誇りを持って地域おこしに貢献したいと、平成10年から継続して自主的に活動するメンバー40人の仲間たちである。

活動内容は新野カカシ祭りの開催、史跡看板等の整備、新野クリーン作戦などで、この中でも手作りの地域イベントとして地元の風物詩となったカカシ祭りは、毎年地元企業や幼稚園、小学校、福祉施設など、市内各地から作品が寄せられ、地域に愛されるイベントとして発展。新野の活力だけでなく、御前崎市の活力を内外に発信するものとなっている。

また、新野地区が井伊直虎の伯父である新野左馬助公が治めた土地であることから、御前崎市の「おんな城主直虎」応援プロジェクトにも参加し、市のPRと観光の活性化に取り組むなど、自らの思いで活動している。



多くの人が訪れる新野カカシ祭り

住民主導で魅力あふれるまちづくり 特定非営利活動法人新居まちネット(湖西市)



小学校の総合学習支援

新居関所を中心とした新居の歴史を活かしたまちづくりを進めた「新居関所周辺まちづくりの会」を前身に、町で活動する歴史・環境・福祉などの様々な団体との連携を図り、それぞれの活動がより活発になるための必要な仕組みをつくることを目指して、平成22年1月からNPO法人としてスタート。

国登録文化財「小松楼」の指定管理を受託し、小松楼を中心に地域の茶の間（高齢者のミニデイサービス）、小学生の下校時の待合場の福祉事業、地域資源を利用したまち歩き、観光振興と多岐にわたる活動を展開。特に、高齢化が進みコミュニティの関係が希薄となる中、高齢者や小学生など、地域の人々が気兼ねなく集う交流の機会を生み出すなど、単に歴史資源を活かした活性化活動だけでなく、住民のふれあいの場づくりも積極的に展開している。

審査総評

(伊藤光造審査委員長)

本年度は11市から18団体の応募があり、優秀賞4団体、優良賞6団体、奨励賞8団体となりました。

審査方法は、地域性、主体性、普遍性、発展性、獨創性、活動実績の審査基準を基に事前審査を行い、その結果に基づいて審議を行い各賞を決定しました。

今年度の特色は、従来からの地域活動をベースにコミュニティの充実を図るオーソドックスな形のもの、高齢社会を反映した地域サロンなどを行う活動が多くみられました。また、複数の団体が連携して行う活動が多く、さらに、各々のコミュニティを支援する中間支援団体の活動が顕在化してきているという特徴もありました。こうした傾向をふまえ、優秀賞4団体が選ばれました。それぞれ優れた特徴を持ち地域で活動を展開しておられますので、ぜひ参考にしてください。

また、優良賞6団体、奨励賞8団体も、それぞれ地域の特色を生かした特色ある活動で、こちらも学ぶべきところが沢山あると思います。

なお、人口減少が進展し、コミュニティの維持は暮らしのセーフティネットを維持する点でますます重要となってきました。地域の課題に適切に対処するため、地域内の複数の団体が連携する、地域外のNPO団体などと連携するなどが大切です。このことは、地域団体が強く意識して、様々な

まちから・むらから

●東伊豆町



ハマユウの葉で待糰と魚糰を作る

地域の子どもたちを育てる学校

稲取ふるさと学級

▼自然への挑戦や野外での活動による地域の人たちとのふれあいの中で、自分たちの住む故郷を知ることを目的に昭和52年に発足した。主催は教育委員会だが、指導に当たる地域の方と一緒に企画している。

は、現在稲取の伝承地域でも行われることが少なくなり「稲取ふるさと学級」が中心となって老人会の指導のもと守り続けている。

▼対象は4年生以上の小学生だが、中・高生らも小学生たちをまとめるボランティアとして在籍している。「稲取ふるさと学級」を卒業した子らが、ボランティアやスタッフとして手伝っている姿は、活動を継続して行くうえでの励みになっている。



はんまあ様

▼授業内容は、幅広く郷土のことを外に出て学べるように、自然観察や伝統行事の体験、キャンプ、町民文化祭への参加などを行っている。特にハマユウの葉で作る9月9日の重陽の節供を飾る「はんまあ様」作り

◇代表：深澤和哲さん

(問合せ・0557-95-6206 (教育委員会事務局))

【情報提供：鈴木邦夫】

●伊豆の国市

あるもの活かして浮橋の魅力伝えます

浮橋まちづくり実行委員会

▼山間にある浮橋地区は、昼夜の寒暖の差が大きいことから美味しいそばが出来る。元々自家消費用の栽培のため一般には出回らないことから、12月に開催する祭りには幻のそばを求め600人の地区に2000人近くが来場する。

▼「地域の特産品を活用し、産業として地域での雇用を作り、本当の意味での地域活性化につなげたい」と土屋代表は語った。



10月に行われたそば刈り体験

▼会では、過疎化が進む浮橋地区の活性化を目指して、地区の特産品である幻のそば栽培体験や田舎体験ツアー、ホタル鑑賞など地域にあるものを活かして、浮橋の魅力を市内外へ積極的に発信している団体である。

25人の会員が休耕田などを利用しそばを栽培し、区に協力して祭りに提供している。また、そばの他にも栽培した小麦粉でパン屋さんの協力のもと中学生と一緒にパンを作り、売上金を東日本大震災へ寄付する活動や「浮橋うどん」の商品化も行っている。

HP：<http://ukihashi.jp/>

◇土屋 實さん (問合せ・0558-76-7785)

【情報提供：三枝和則】

●裾野市



楽しい話し合いならお任せください

楽しい会議で人が変わる!

みらい建設部

▼「誰かご意見ありませんか」と言ったら会議の場が静かになった。「緊張して何も発言できない」「声の大きな人の意見で決まった」などは誰でも会議の場で経験したことがある。

▼会員は、市の「楽しい地域づくり講座」に参加した仲間。年齢は20代～70代と幅広く、地域の役員、会社員、公務員、主婦、自営業者など多様な顔ぶれが集まる。

これまで、市民活動団体や行政などの依頼を受け、25件の会議をサポートしてきた。定期活動では、会員の交流や会議技術の向上を目指した研修を行っている。

▼会の特徴として、それぞれ身の丈以上の活動を無理して行わない。また、会の運営資金を補うため、遊休農地を活用した作物の栽培をしていることである。

みらい建設部は、楽しくない会議を、会議のファシリテーション技術(進行技術)を学んだ会員がサポートし、参加者全員が発言できる楽しい会議へと変えていく市民活動団体である。

◇事務局：宮坂里司さん (問合せ 055-992-3800)

【情報提供：小田圭介】

各地の活動

各地の活動情報

● 島田市金谷



こんにゃくづくりを楽しむ参加者

「わたげっていいね」の声をめざして

わたげの広場

▼平成 26 年に地区社協の呼びかけで始まった高齢者サロン「わたげの広場」は、誰でも予約なしで気軽に参加ができ、スタッフも一緒に楽しむことをモットーに月 2 回開催し、風に乗って集まる綿毛のように金谷のあちらこちらから自然と集まる場所を目指している。

スタッフは女性のみだが、地域の演奏好きな男性陣を仲間に引きずり込み、午前には生演奏での歌を楽しみ、午後は手芸で指先を動かしてワイワイと毎日にぎやかな

時間をすごしている。

夏休みには回覧版で子どもたちの参加を呼びかけ、世代間交流も行っている。

▼「家から出るのが億劫だったけど楽しくなった」という声や、参加するごとに活き活きしてくる表情は、スタッフの元気の源になっている。

活動を始めたことで、利用者もスタッフも地域の人のつながりが広がった。わたげっていいね！の声を もっと地域に広げるために継続していきたい。

◇代表：岩堀政子さん（問合せ・0547-46-2103）

【情報提供・大村泰史】

● 島田市伊久身

伊久美学区の名物！小学校と地区の合同運動会

伊久身コミュニティ委員会

▼島田市北部の静かな山間地で全校生徒 20 人の伊久美小学校と伊久美学区の 31 回目の合同運動会が開催された。人口 500 人程の学区だが、今年も見学者を含め 250 人近くが集まった。今や伊久美の名物になっている。

▼元々同じ敷地の中学校と合同で開催していたが、昭和 60 年頃中学が統合されたのを機に、どちらともなく声をかけ始めたのが始まりである。

企画運営は学校と伊久身コミュニティ会が合同で種目など決めている。また、運動会終了後に反省と今後の開催に活かすため、アンケートを取っている。

▼合同開催の良さは、子どもはたくさんの応援を受け練習以上の力を発揮できること、大人は真剣な子ども

の姿から元気ももらえることである。プログラム最後の地区対抗綱引きでは、明日の身体への影響を心配することを捨て去った引きあいに、会場は大喝采！感動の渦となり、今年も無事終了した。



大人も子ども全力勝負

◇代表：堀崎幸男さん（問合せ・0547-39-0614）

【情報提供・堀崎晶子】

地域活動情報

この詳細はホームページでご覧になれます (HP <http://www.sizcom.jp>)

No	市 町	活 動 名	主 催 者	月 日	場 所
1	西伊豆町	若さ100% ソフトボール	サンライズベースボール	週 1回 日曜日 10:00~11:30	西伊豆町 「ふるさと広場 安城公園」
2	沼津市	原地区コミュニティ文化祭り上げます!	原虹の会	平成28年10月29、30日 (土、日) 文化祭	原地区コミュニティセンター
3	沼津市	地区コミュニティ祭りで地域と一体化	コミねっと大平	定例会：月 1回 活動：月 1~2回	地区センターなど
4	御殿場市	富士山の麓をきれいに	NPO富士山御殿場ガイド 「御厨の風」	清掃活動：平成29年2月19日 (日) 定例会：月 1回 秩父宮記念公園で燻蒸作業：月 2回	御殿場市内
5	静岡市区 駿河区	遊びにおいでよ! in宇津ノ谷	宇津ノ谷倶楽部	平成28年11月13日 (日) 10:00~14:00	駿河区宇津ノ谷地区
6	島田市	年に一度の交流運動会	UK3アーチ	平成28年10月15日 (土) 10:00~14:00	島田市金谷体育センター
7	吉田町	かわしりっ子わんぱく宿 ~地域における通学合宿~	かわしりっ子わんぱくサークル	平成28年10月6日(木)~8日(土) 年 1回	川尻会館
8	掛川市 大東大須賀	移動児童館、みんなで遊ぼう	大東児童館	年 4回	大東地域 5小学校
9	湖西市	浜名湖新居のカキで地域活性化	泉町発展会	平成29年1月7日(土)~4月2日(日) 会場により期間、日時が違う	新居関所東駐車場、 新井弁天「海湖館」カキ小屋

地域訪問記

鎮守の森「梅名のお宮さん」境内の清掃続けて53年!

梅名親和会 (三島市)

三島大社の門前から伸びる下田街道沿いに古くから大社の隨身門である右内神社、左内神社がある。今回の訪問地は、その一つ右内神社がある三島市梅名である。源頼朝が源氏再興の為に三島大社に通ったときに度々立ち寄ったと伝えられる。地域の方々は親しみを込めて「梅名のお宮さん」と呼んでいる。



感謝を込めて、手際よく掃き清めていく

毎月1日8:30になると右内神社の境内には自治会の団体である「親和会」と氏子総代が集合して清掃が始まる。特に晩秋は1100坪の境内の大木からたくさん木の葉が舞い落ちる。清掃は約1時間。秋には落葉掃き、夏には草取りをして終われば境内内の集会所「梅名倶楽部」で、ひとしきりお茶とおしゃべりを楽しむとか。

「親和会」とはなんぞや?

自治会内には15~16程の活動団体が存在する。「親和会」もその一つで旧老人会の現在の呼び名である。総勢72人の会員は5:1で圧倒的に女性優位。活動内容は多岐にわたり、健康表現体操、舞踊、ハンドベルや、老人ホームへの慰問、小学校放課後クラブでのお手玉、将棋などの指導と暇がない。

神社がとりもつコミュニケーション

なぜ、こんなに地域の神社を大切にするのか。会長の鈴木さんは「子どもの頃の遊び場で自分にとっては切っても切れない鎮守の森」という。それは古くから住民の拠り所としての鎮守の森の存在であり、その鎮守の森を守る気持ちが郷土愛となり、神社の清々しい行まいが地域方々の誇りにつながって、それが毎月の清掃活動となっているのであろう。

神社を中心にして夏祭り、秋祭りで大いに盛り上がり、また、小学2~3年生の町内探検隊や中学生が地域との繋がりを持ちたいとの希望で境内の清掃と梅名の歴史について学ぶため神社に集まって来る。神社が地域に根付いた世代を超えたコミュニケーションの場となっているのである。



清掃に参加後、神社にまつわる話を聞く中学生

人が集まる仕組み作り

三島市は、各自治会の裁量で町内放送を行うことができるので、毎月1日の神社の清掃の前日午後2時から告知放送が流れる。回覧板と並行して清掃以外にも各催し物、祭りなどの放送を流している。目から耳からの情報でこれなら漏れは無さそうである。

今後50年100年と鎮守の森を守ることが地域の方々の役目であるが、それは三島の梅名の人々に限らず私たち全てに関わる大切なことであると感じた。



この日は、30人程集まった



「変わらない?」声をかけあう

◇代表: 鈴木 進さん (問合せ・高井芳雄 055-977-3164)
【情報提供: 佐藤芳伸】

レポート: 中村弘美 編集委員

地域訪問記

地域訪問記

心豊かな住みよい地域を目指しサポート活動

はなみずき有度（静岡市清水区）

静鉄御門台駅周辺の有度地区は、昔から地域活動が盛んな地域である。「はなみずき有度」は、旧清水市時代に婦人会として活動していた団体である。今回、赤地に白い「はなみずき」をデザインしたあでやかなユニフォーム姿



左から、清水さん、戸塚さん、佐野さん

の佐野あき子会長、戸塚恵美子副会長、そして清水春江会計の3人に活動内容を伺った。

婦人会からはなみずきへ

平成12年、静岡市と合併により婦人会は解散となったが、引き続き活動を続けようと旧清水市の市の花の名を付けて「はなみずき有度」を設立した。現在会員は74人（男性4人）。活動内容は託児サポート、男の料理教室、まつり参加、中学生講座、廃油回収、慰問用クッキー作り。「連携と温もりで心豊かな住みよい地域を目指しサポート活動をしよう」「省エネ活動を通じ生活を見直そう」を目標に活動している。

男（おやじ）の料理教室



本日のメニューはゴーヤの肉詰め焼き

男性を対象に、年に2回（6月、11月）料理教室を実施しており、60～70歳代の「おやじ」が15人程度集まる。講師は元栄養士や元家庭科の先生で参加費は600円。まず、高齢に伴う栄養摂取について簡単な栄養学を講話し、料理の基礎から丁寧に教える。出来上がった料理をいただきながら会話が弾み、和気あいあいの楽しい教室である。

働くお母さんのサポート



有度第一小学校での参観日での託児サポート。

夏休みはお盆明けの5日間、地域の交流館で小学校低学年の児童25人を9時～14時まで預かり、昼食の提供などを行っている。子どもたちは友だちも増え、普段できない遊び・体験ができると大変喜んでいる。

また、学校の参観日には保護者が連れてきた乳幼児を預かる託児サポートも行っている。保護者から感謝に堪えないとねぎらいの言葉を貰うたび、「来年もがんばるぞ」という気持ちになる。

子育て支援を通して「小さな子どもたちが声を掛けてくれることが何よりも嬉しい」と、異口同音に子どもたちとのつながりを心から喜んでいる。これからも楽しくボランティア活動に励んでいく。

◇代表：佐野あき子さん（問合せ・054-345-9609）

【情報提供：木野和子】

レポート：鈴木孝治 編集委員

コミきん家

のりびき・りえ



コミュニティ・フォーラム 2017

「つながる」「つなげる」地域のデザイン

参加費無料

2017 **1/31** 火
10:00～14:30

会場 **グランシップ 会議ホール 風**
静岡市駿河区池田 79-4 ☎054-203-5710

人口減少社会における地域課題解決のため、地域で活動する様々な団体と連携・協働を図り、今までのコミュニティ活動からステップアップする新しいコミュニティづくりについて考えてみたいと思います。

プログラム

- 10:00 開会
- 10:15～ 表彰式
・平成28年度コミュニティ活動賞
- 10:30～ 基調講演
・演題 「つながる」「つなげる」地域のデザイン
・講師 山崎 亮 (studio-L 代表、東北芸術工科大学教授)
- 12:00～ 昼食・休憩
- 12:45～ ちょっと一息
・健康長寿体操「すこやかエブリデー」
・静岡県リズムムーブメント研究会 会長 矢崎昭子
- 13:00～ パネルディスカッション
・テーマ：ステップアップするコミュニティ
- 14:30 閉会

基調講演



山崎 亮氏

※参加には**入場整理券が必要**です。
※昼食を希望される方は、700円で幹旋いたします。

問合せ、申し込み先
静岡県コミュニティづくり推進協議会
電話 054-251-3585 / FAX 054-250-8681

平成28年度コミカレ修了者アフター研修会を開催

コミュニティカレッジの修了者の研修会が静岡市「あざれあ」にて開催しました。

講演

「人口減少のいま」 静岡県政策企画部地域振興課班長、宮田英和氏

活動事例発表

- コミねっと大岡（沼津市） コミねっと金谷（島田市）
- 西山口地区福祉協議会（掛川市）
- 麦塚青年会（裾野市）
- NPO法人清水ネット（静岡市）
- 田原水車の里愛護会（磐田市）

全体講評

静岡福祉文化実践研究所長 平田 厚 氏



開始前の一コマ、初倉から参加



宮田氏による講演



全体講評 平田氏



満員御礼で終了した

編集・発行

静岡県コミュニティづくり推進協議会
〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
総合社会福祉会館3階
TEL 054-251-3585
FAX 054-250-8681
URL <http://www.sizcom.jp>
E-mail sizucom0829@po.across.or.jp
※地域情報お寄せ下さい。

コミ 推 協 会